

# 恐竜 Dinosaurs



恐竜博物館

ニュース

第54号

2018.7.5

福井県立恐竜博物館

## 2018年度特別展「獣脚類：鳥に進化した肉食恐竜たち」

- 目次 ▼特別展「獣脚類：鳥に進化した肉食恐竜たち」… 2～3 ▼日本最古のヨロイ竜類の歯化石の発見について… 4～5  
▼研究員のページ「“長野”のアンモナイト化石」… 6 ▼Q&Aから「恐竜もケガや病気をしたの？」… 7  
▼2018年8月～12月催し物案内… 8



### アロサウルス・フラギリス

*Allosaurus fragilis*

竜盤目 獣脚亜目 アロサウルス科  
ジュラ紀後期  
アメリカ ユタ州





平成30年度特別展

# 獣脚類

## 鳥に進化した肉食恐竜たち

*Theropods: from Carnivorous Dinosaurs to Flying Birds*

2018 **7.13**金・**10.14**日

(9月12日、26日、10月10日は休館)

一般 1,200円  
高校・大学生 800円  
小・中学生 600円  
70歳以上 500円

7月13日(金)に開幕する特別展では、肉食恐竜と鳥類に代表されるグループ「獣脚類」を中心とした展示を行います。展示は5つのゾーンに分かれ、獣脚類の進化史全体を辿る流れで構成されます。

最初のゾーン「獣脚類の出現」では、獣脚類の出現から地上の捕食者として台頭していく過程を追います。獣脚類は三畳紀後期に出現し、その後ジュラ紀に入ると、ケラトサウルス類やアロサウルス上科など、大型の肉食恐竜の系統が数多く出現しました。このゾーンでは、その中でも代表的な種類をピックアップし、短い頭部と前肢が印象的なカルノタウルスや、魚食に適応した細長い口をもつバリオニクス、近年までその姿が謎にまつまれていたメガラプトルなど、さまざまな特徴をも

つ大型肉食恐竜の全身骨格が一堂に会します。さらに、フクイラプトルに近縁な大型獣脚類ネオバナートルは、イギリス国外初公開となる実物化石だけでなく、最新の3Dスキャン・プリント技術で複製された全身骨格を初めて公開します。

第2ゾーン「羽毛をまとった獣脚類」では、羽毛を獲得したと考えられる「コエルロサウルス類」に焦点を当てます。中国で見つかったズオロンやアオルン、アルゼンチンで見つかったピセンテナリアなど、近年発見されたばかりの原始的なコエルロサウルス類を展示し、その初期の進化史をたどります。



ネオバナートルの全身骨格

また、ティラノサウルスの仲間も原始的なコエルロサウルス類にあたりますが、今回はその中でもひととき細長い頭骨を持つことで注目を集めた「チエンジョウサウルス」の頭骨を中国国外で初めて公開します。



チエンジョウサウルスの頭骨

第3ゾーン「生態の多様化」では、コエルロサウルス類のなかでも一段と鳥に近いグループ「マニラプトル型類」に見られる、特徴的な生態を示す獣脚類を紹介します。きわめて大きな前肢をもつテリジノサウルス類や、走行適応が著しいオルニトミモサウルス類などは、肉食性から草食性へと進化し、手の指が1本しかないアルバレスサウルス科は虫を専門に食べていました。羽毛の印象化石が残る「ベイピャオサウルス」をはじめ、その代表的な標本を展示しつつ、彼らの生存戦略に迫ります。



羽毛の印象が残るベイピャオサウルス

第4ゾーン「樹上から空へ」では、さらに鳥類の起源に近づき、樹上生活や滑空による飛行を行うようになった初期の「近鳥類」を紹介します。羽毛ではなくコウモリのような膜でできた翼を持つ獣脚類「イー」や、前肢だけでなく後肢にも翼を持つアンキオルニスやミクロラプトルなど、日本初公開

となる実物化石を数多く展示します。また、鳥類に近縁でありながら、地上の捕食者として進化したドロマエオサウルス科やトロオドン科も繁栄しました。彼らはもともと小型でしたが、中には全長6mにも達するアウストロラプトルなど、大型肉食恐竜へと進化するものも現れました。彼らの骨格から、姿や生態がどう変化していったのかを追っていきます。



膜でできた翼をもつイーの実物化石

最後のゾーン「大空への飛翔」では、いよいよ鳥類が出現します。「中国の始祖鳥」とも呼ばれるシャオティンギアや、羽毛の印象がとても美しいエオコンフキウソルニスなど、日本初公開の実物化石を数多く展示します。また、新生代以降の鳥類についても、鳥類としては最大の頭骨をもつ恐鳥ケレンケ

ンや、史上最大の翼開長をもつペラゴルニスなどの全身骨格を展示し、その多様性についても紹介します。



エオコンフキウソルニスの実物化石

獣脚類は、恐竜の中で唯一現在まで生き残っているグループです。その長い進化史には、非常に興味深い謎がたくさん眠っています。この夏はぜひ特別展をご覧ください、獣脚類の魅力を体感して下さい。

(服部 創紀)

## 特別展関連行事

### ■講演会

「恐竜から鳥をつくる：ネオベナートル、フクイラプトル、羽毛恐竜からわかること」

日時：7月29日(日) 14:00~15:30

内容：獣脚類から鳥類へどのように進化してきたか、特別展の目玉の1つであるネオベナートルや、その近縁種で福井から見つかったフクイラプトルなどから得られる情報を取り上げながら紹介します。

講師：イギリス・エディンバラ大学 准教授 ステファン・ブルサッチ 博士

### ■博物館セミナー「獣脚類の繁栄」

日時：8月19日(日) 13:00~14:30

内容：獣脚類は、いまからおよそ2億3千万年前に登場し、その子孫である鳥類は現在も繁栄しています。さまざまな角度から研究が進む中生代の獣脚類に焦点をあてながら、鳥類にいたるまでの進化の過程を紹介します。

講師：服部 創紀

### ■講演会「獣脚類恐竜の進化と鳥類の起源」

日時：8月26日(日) 14:00~15:30

内容：鳥類の系統学的な起源が明らかになったことにより大規模な形態進化のモデルタクソンのひとつとなった獣脚類恐竜の研究について、野外調査の様子や化石には残らない器官の進化的変化などを含めて紹介します。

講師：東京大学大学院理学研究科 准教授 對比地 孝亘 博士

### ■特別展ツアー

日時：7月14日(土)、8月25日(土)、9月15日(土)、10月14日(日) 13:00~14:00

内容：特別展の素晴らしい標本について、詳しく解説します。



# ヨロイ竜類の歯化石

昨年度の恐竜化石発掘調査で、福井県からは初めてヨロイ竜類の歯が発見されました。化石のクリーニング作業を進めていく中で、これまでに複数の歯が見つっていますが、いずれも形が似ていることから同じ種類のヨロイ竜類の歯であると思われます。ヨロイ竜類の歯は、ヒトの手のひらのような形をしているものが多く、今回見つかったものもそのような形をしています。特にはじめに見つかった2つの化石は、細かな特徴を見たところそれぞれ上顎と下顎の歯であることもわかりました(写真1)。

上顎の歯は、歯根(歯茎に埋まっている部分)はほとんど壊れて失われてしまっていますが、歯冠(歯茎から出ている部分)はとても綺麗な状態で保存されていました(写真1右)。長さ

は約1cmとやや小型です。歯冠の先には噛み合わせによって削られ、平らになった咬耗面が見られます。

下顎の歯は、歯冠の先がやや欠けてはいるものの、歯根の先まで綺麗に残っていました(写真1左)。長さは約2.4cmです。この歯には歯冠の根元付近に三角形の咬耗面が見られます。咬耗面の大きさや形、表面の細かな傷を見ることで、このヨロイ竜類が

どのように顎を動かして餌を食べていたのかといったことが今後わかってくるかもしれません。

これまで福井県からはヨロイ竜類の足跡化石は見つかっていました。しかし歯や骨の化石は見つかっておらず、歯や骨の化石の発見が待ち望まれていました。そして2017年に歯の化石が見つかったのです。国内のヨロイ竜類に関する化石は既に北海道、熊本県、

表1. 国内でのヨロイ竜類化石の発見状況

北海道夕張市	ノドサウルス科の頭骨等(約9500万年前)
熊本県御船町	歯1点(約9000万年前)
富山県富山市	足跡(約1億2000万年前)
兵庫県丹波市	歯1点(約1億1000万年前)
長崎県長崎市	歯1点(約8100万年前)
福井県勝山市	足跡、歯複数点(約1億2000万年前)



写真1. 今回発見されたヨロイ竜類の歯化石2点(右側が上顎、左側が下顎の歯)

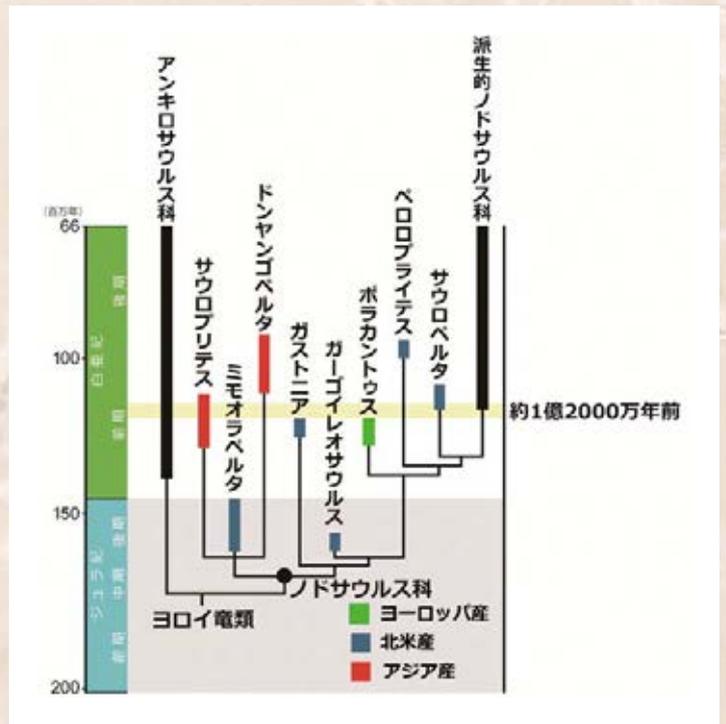


図1. ノドサウルス科を中心としたヨロイ竜類の系統樹

# 化石の発見について

富山県、兵庫県、長崎県、福井県から知られていました（表1）。このうち、富山県と福井県で見つかった化石は足跡化石で、特に富山県の足跡はヨロイ竜類化石としては国内最古（約1億2000万年前）のもので、そして今回新たに福井県で歯の化石が見つかったわけですが、これは歯や骨の化石では国内最古（約1億2000万年前）のもので、白亜紀前期のアジア地域では、ヨロイ竜類の化石はあまり多くは知られておらず、当時のヨロイ竜類の世界的な分布や進化を考える上で、今回の化石は非常に重要な情報をもたらすものと考えられます。

そもそも、ヨロイ竜類は大きくノドサウルス科とアンキロサウルス科に分けることができます（図1）。今回見つかった歯の化石は共通して、比較的咬頭の数少なく、歯冠は複雑、歯冠

の根元部分に発達した歯帯（ふくらみ）が頬側にあるという特徴が見られます。これらのことから、ノドサウルス科のものであると推定されました。ただし、福井で見つかった歯は、ヨロイ竜類の中でも原始的なもののように見えます。原始的なヨロイ竜類の分類については、研究者によって意見が異なることが多いのが現状です。そのため、福井のヨロイ竜類の歯が厳密にノドサウルス科のものなのか、もしくはより原始的な仲間のものなのかについては、今後より詳しく検証していく必要があるでしょう。

ヨロイ竜類はジュラ紀後期の北米に起源があると言われています。特に原始的なヨロイ竜類やノドサウルス科は、その後ヨーロッパやアジアを中心に世界中にその分布を広げていくことになります。福井県から見つかった化

石は白亜紀前期（約1億2000万年前）のもので、この発見によりこの時期には既にヨロイ竜類はアジアの東縁にまで分布を広げていたことが確かだということがわかります。つまり、今回見つかった化石はヨロイ竜類の地理的分布や放散、進化を理解するための貴重な証拠になるのです。

このように学術的にも重要な意味を持つヨロイ竜類の歯ですが、昨年度の発掘で複数の標本が見つかりました。そのため、今年度以降も北谷恐竜発掘現場での発掘を続ければ、頭骨や装甲板などの追加標本を発見できる可能性もあり、勝山市に生息していたヨロイ竜類のより詳細な復元や、福井県の白亜紀前期における動物相の理解が進むことが期待されます。

（河部 壮一郎）

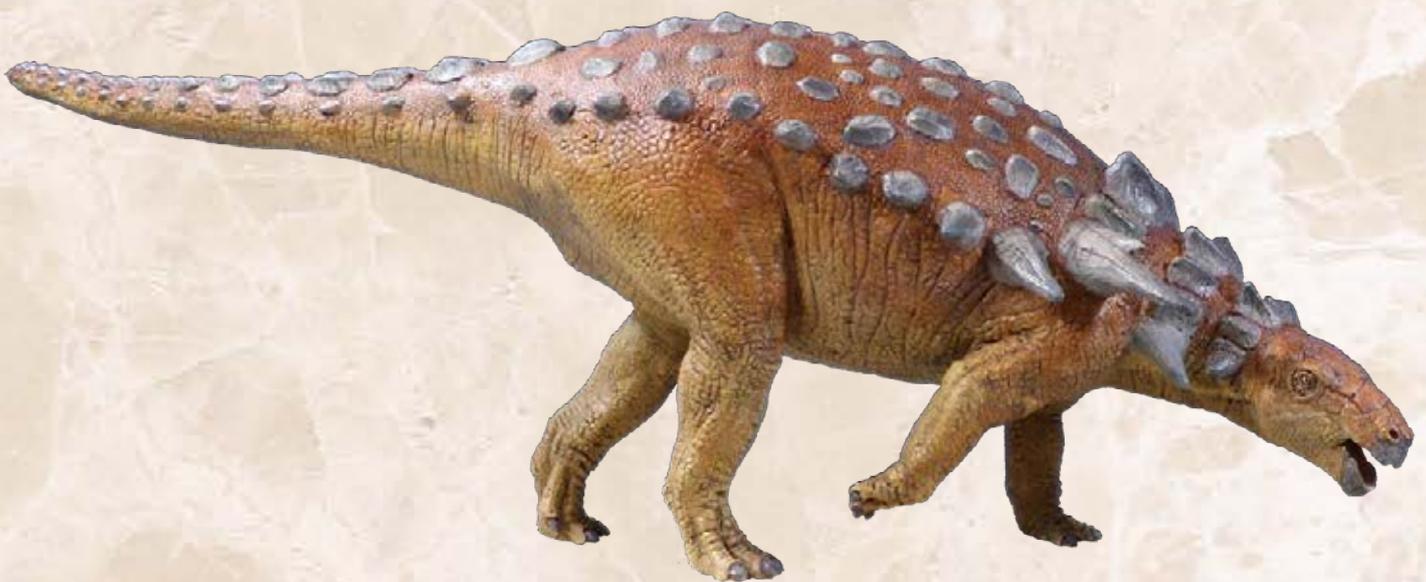


図2. ノドサウルス科の代表種、エドモントニア(全長約6m)の生体復元模型  
(模型制作/荒木一成)

# “長野”のアンモナイト化石

研究員 中田 健太郎

タイトルに“長野”とありますが、「長野県」ではなくまぎれもない福井県のお話です。

福井県大野市の旧和泉村地域は、ジュラ紀のアンモナイト化石が豊富に産出することで有名な場所です。九頭竜川の上流域にあたるこの地域には、ジュラ紀中期～白亜紀前期に堆積した地層である手取層群が分布しています。恐竜博物館が実施している発掘調査の対象が勝山市内に分布する手取層群であることからわかるようにこの地層は恐竜化石が発見されることで有名です。恐竜などの陸上生物の化石は主に手取層群上部（湖や川で堆積）から発見されますが、和泉地区には手取層群の下～中部（より古い部分、海や川で堆積）が分布しており、アンモナイトを含む中生代の海に生息していた生き物の化石が豊富に産出します。

和泉地区の手取層群分布域南東部に位置するのが九頭竜ダムです。このダムは、竣工当時は所在地域の地名から「長野ダム」と呼称されていました（長野県のダムだと勘違いされることを懸念し、現在の名称に変更になったようです）。ここで紹介する“長野”

のアンモナイトとは、九頭竜ダムのすぐ北側にあたる長野地域内で発見されたものです。

長野地域は、明治時代初期から知られる由緒正しきアンモナイト化石の産地です。1904（明治37）年に長野地域より産出したアンモナイト化石の記載論文が公表されたのですが、これは手取層群における最初のアンモナイト化石の記載論文であるだけでなく、日本における最初のジュラ紀

アンモナイトの記載論文であるという点でまさに時代を切り開いた研究成果でした。その後、和泉地区からは石徹白地域（貝皿や下山といった有名な産地があります）を中心に多くのアンモナイト化石が産出し、手取層群は日本を代表するジュラ紀アンモナイト化石の産地として知られるようになります。ところがその“元祖”である長野地域ではその後のアンモナイト化石の産出が乏しく、研究があまり進展しま



長野地域より産出したアンモナイト、*Perisphinctes (Kraeosphinctes) matsushimai*

せんでした。実は化石の産出地点も明確に示されていないこともあり、長野地域は“幻の産地”と言っても過言ではない状況が長く続いてきました。

この“幻”が遂に現代にて再び現実のものとなりました。2012～13年にかけて九頭竜ダムの北側を走る国道158号線にスノーシェッドが設置されたのですが、その工事現場から多くのアンモナイトや二枚貝（イノセラムス類）の化石が産出しました。アンモナ



アンモナイト化石が発見された長野地域の工事現場



2015年の同定会にて一堂に並べられた化石標本

イトに関しては、2015年に私も関わる研究グループが127標本の同定を行い、少なくとも10種のアンモナイトが産出することが明らかになりました。この群集は、直線的な肋（殻の表面の模様）が多数見られるペリスフィンクテスの仲間が最も多くを占め、オケトセラスやフィロセラスなど様々な分類群が含まれるほか、これまで九頭竜川上流地域から発見されたことがないサブディスコスフィンクテスなどが含まれるなど、手取層群でもトップ

クラスの高い多様性を示すことがわかりました。また、この群集が約1億6000万年前（ジュラ紀後期）のものであることがこれまで以上に明確になりました。これらの詳細については、大野市が準備を進めている図録（今年度中に発刊）に掲載される予定です。

近年、手取層群の定義や区分については見直しを視野に入れた議論が活発になされています（本文中の「手取層群」は従来の定義・区分に従っています）。その際にはどの地域の地層がど

の時代に堆積したのかについて解明・整理する必要があります。アンモナイトは地層の年代を決めるツールとして極めて有効な化石（示準化石）であるため、今回の発見は手取層群でのこのような議論における年代対比／決定のひとつの基準として重要といえます。また、このような研究の積み重ねにより、将来的には手取層群の成り立ちなども明らかになることが期待されます。

## 恐竜博物館のQ&Aから

### Q 恐竜もケガや病気をしたの？

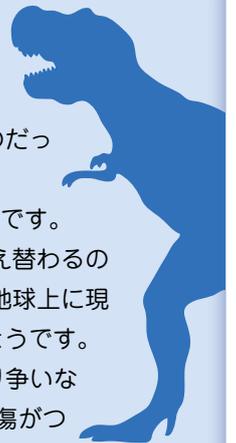


もちろん恐竜も、ケガや病気をしたことでしょう。生き物ですから。ただそれがどんなものだったのかも、化石から推測するしかありません。

この手の質問でよくあるのが「恐竜はむし歯になったの？」で、答えは「たぶんなかった」です。しかし歯の化石を調べても、むし歯のせいで穴が開いているものはありません。恐竜の歯は何回も生え替わるので、むし歯になっても穴が開く前に生え替わってしまうから、と考えられます。逆にむし歯菌がまだ地球上に現れていなかったからという可能性もあります。ともあれ、恐竜はむし歯で困らなかったことは確かなようです。

ケガはよくあったことでしょう。草食恐竜は肉食恐竜に襲われたでしょうし、肉食恐竜でもなわばり争いなどで戦ったことでしょう。もっとも、その証拠はやはり骨化石に頼るしかありません。骨が折れたり傷がついたりした跡が残っていれば、そういったケガを負ったことが分かります。当館の恐竜骨格の中には、骨に傷跡があったり、折れた骨が治ったことによるコブが残っているものがあります。写真を載せましたので、どの恐竜のものか探してみてください。また他の恐竜にはないのかも調べてみてください。

また病気ですが、内臓系の疾患や皮膚病、感染症などが考えられます。ただし骨化石に証拠が残らないので、実際どんな病気をしたのかは分かりません。現生の野生動物と同じく、病気で動けなくなることは死を意味します。長い間の療養はできなかったことでしょう。ところが「スー」とニックネームがついたティラノサウルスの骨には、痛風によく見られる関節部分の異常があったそうです。痛風の激痛はひどいと聞きます。恐竜も大変だったようですね。



# 恐竜博物館カレッジの ご案内

2018年8月~12月

※所定の方法にて、行事名、氏名、年齢、住所、電話番号を、博物館までご連絡ください。開催日の一ヶ月前から受付を開始し、定員に達し次第締め切らせていただきます。ただし、申し込み多数の時は抽選となる場合があります。  
 ※行事の日程、内容等につきましては、変更になることがあります。  
 ※当館Webサイトの行事案内ページ (https://www.dinosaur.pref.fukui.jp/event/) もご覧ください。  
 ※10回参加いただけますと「恐竜博物館カレッジ認定証」を発行いたします。(年度をまたいで可)。

## 特別展関連行事

**特別展講演会**  
 場所/講堂  
 ※申し込み不要です。

■恐竜から鳥をつくる: ネオオナトル、フクイラトル、羽毛恐竜からわかること  
 日時/7月29日(日) 14:00~15:30  
 内容/ 獣脚類から鳥類へどのように進化してきたか、特別展の目玉の1つであるネオオナトルや、その近縁種で福井から見つかったフクイラトルなどから得られる情報を取り上げながら紹介します。<原題: How to make a bird from a theropod dinosaur: information from Neovenator, Fukuiraptor, and feathered dinosaurs.>

講師/イギリス・エディンバラ大学 准教授  
 ステファン・ブルサッテ 博士

■獣脚類恐竜の進化と鳥類の起源  
 日時/8月26日(日) 14:00~15:30  
 内容/ 鳥類の系統学的な起源が明らかになったことにより大規模な形態進化のモデルタクソンのひとつとなった獣脚類恐竜の研究について、野外調査の様子や化石には残らない器官の進化的変化などを含めて紹介します。

講師/東京大学大学院理学研究科 准教授  
 對比地 孝亘 博士

**博物館セミナー**  
 申込/電話、FAX、E-mailにて

■獣脚類の出現と繁栄  
 日時/8月19日(日) 13:00~14:30  
 内容/ 獣脚類は、いまからおよそ2億3千万年前に登場し、その子孫である鳥類は現在も繁栄しています。さまざまな角度から研究が進む中生代の獣脚類に焦点をあてながら、鳥類にいたるまでの進化の過程を紹介します。

講師/服部 創紀

**特別展ツアー「特別展の展示解説」**  
 内容/ 特別展の素晴らしい標本について、詳しく解説します。  
 担当/服部 創紀 場所/特別展示室  
 対象/20名  
 申込/電話、FAX、E-mailにて  
 ・第2回/8月25日(土) 13:00~14:00  
 ・第3回/9月15日(土) 13:00~14:00  
 ・第4回/10月14日(日) 13:00~14:00

## パブリックコース

### 博物館セミナー

場所/研修室  
 申込/電話、FAX、E-mailにて

■日本の恐竜卵化石  
 日時/9月23日(日) 13:00~14:30  
 内容/ 恐竜の卵化石は世界中で発見されています。最近では日本各地でも恐竜卵化石が見つかり、徐々に研究が進んできました。このセミナーでは、日本での恐竜卵化石研究を紹介し、日本で卵を産んでいた恐竜たちに迫ります。

講師/今井 拓哉

**ギャラリートーク開催**  
 当館研究スタッフが、展示標本を前に30分程度のお話をします。開催日時、集合場所等、当館ホームページのイベント案内をチェックして下さい。

■西九州有明海の独自性と生き物の成立史  
 日時/10月7日(日) 13:00~14:30  
 内容/九州西部の有明海・八代海および瀬戸内海の一部には、他の海域には見られない独特の生物が生息しています。地質学的・古生物学的な証拠に基づく独特な生物の起源などについてお話しします。

講師/徳島県立博物館 上席学芸員  
 中尾 賢一 博士

■日本でみつかる恐竜時代初期の植物  
 日時/10月28日(日) 13:00~14:30  
 内容/ 恐竜が生きていた時代である中生代三畳紀後期の植物で、日本でみつかるものを紹介し、当時の環境について解説します。

講師/湯川 弘一

■アンモナイトの生物学  
 日時/11月11日(日) 13:00~14:30  
 内容/『石』のイメージが強いアンモナイトですが、これまでの研究から判明した本来の『生物』としての姿(見た目・生態)について紹介します。

講師/中田 健太郎

■雑食性から植物食性へ: 竜脚形類の場合  
 日時/11月24日(土) 13:00~14:30  
 内容/ プラキオサウルスなどの竜脚類は植物食性ですが、ルーフェンゴサウルスのような原始的な竜脚形類の段階では雑食性でした。雑食性から植物食性へは、どのような特徴が変わっていったのか、その進化をたどってみましょう。

講師/関谷 透

■大人のための自然教室~クジラの骨の解剖学  
 日時/12月16日(日) 13:00~14:30  
 内容/クジラの鼻の穴は頭の上にあります。体もまるで魚のようです。陸上で二足歩行をするヒトと一生を水中で暮らすクジラ。同じ哺乳類でも姿形がかけ離れています。クジラの体のつくりを実際の骨を見ながらしらべてみましょう。

講師/一島 啓人

## ジュニアコース

### 博物館自然教室

場所/実習室  
 対象/小学生以上(小学生は保護者も参加) 20名  
 申込/往復ハガキ、E-mailにて

■三葉虫を調べよう  
 日時/9月9日(日) 13:00~15:00  
 内容/恐竜よりもずっと昔の生き物の三葉虫は、どのような形をしていて、どのような生活をしていたのでしょうか。実物の標本を手に取り、化石レプリカを自分たちで作ることで、詳しく見ていきましょう。

担当/河部 壮一郎

■系統樹をかこう  
 日時/9月30日(日) 13:00~15:00  
 内容/生命の進化を表す図としてよく使われる系統樹。ここでは簡単な系統樹作りに挑戦しながら、分岐学の基本的な考え方を学びます。

担当/園田 哲平

■ジュラ紀の植物化石をみよう  
 日時/10月21日(日) 13:00~15:00  
 内容/ジュラ紀の植物化石を実際に観察して、当時のような植物が生えていて、どんな世界が広がっていたかを想像します。

担当/寺田 和雄

■骨のかけらから動物の正体を探る  
 日時/11月4日(日) 13:00~15:00  
 内容/恐竜など体の中に骨のある動物の場合、周りの肉がなくなるとすぐに骨がばらばらになってしまうため、完全な形で化石が見つかることは稀です。骨のかけらから何の動物かを当てる方法を遊びながら学習します。

担当/一島 啓人

■アンモナイトの形を調べよう  
 日時/12月2日(日) 13:00~15:00  
 内容/少なくとも1万種類はいたとされるアンモナイトはどのように見分けるのでしょうか?ゲーム形式で実際の化石を観察しながらその見分け方について学びましょう。

担当/中田 健太郎

■肉食獣の歯を観察しよう  
 日時/12月24日(月) 13:00~15:00  
 内容/肉を食べる動物たちの歯にはどんな特徴があるのか、いろいろな肉食獣の歯型をプラスチックで作って、歯の進化の様子をクイズ形式で紹介していきます。

担当/宮田 和周

## キッズコース

### 恐竜ふれあい教室

対象/4歳~小3の親子 15組  
 場所/実習室  
 申込/往復ハガキ、E-mailにて

■親子で恐竜の絵をかこう!  
 日時/8月5日(日) 13:00~15:30  
 内容/いろいろな恐竜の特徴をつかんで、恐竜のイラストに挑戦します。  
 講師/恐竜イラストレーター 山本 匠 先生  
 申込/往復ハガキ、E-mailにて。受付は7/5~12、抽選にて参加者に通知

■親子で恐竜模型をつくろう!  
 日時/9月2日(日) 13:00~15:30  
 内容/恐竜の骨格をもとに、粘土を使って恐竜を復元します。  
 講師/恐竜造形家 荒木 一成 先生  
 申込/往復ハガキ、E-mailにて。受付は8/2~9、抽選にて参加者に通知

■宝探し! 金色の鉱物を探そう!  
 日時/11月25日(日) 13:00~15:00  
 内容/鉱物の中には独特の形になるものがあります。金色の鉱物「黄鉄鉱」を探しながら、そんな自然の造形美を感じてみましょう。見つけた鉱物は10個までお持ち帰り頂けます。

担当/山村 哲生

■テラリウムで恐竜の世界にこう!  
 日時/12月9日(日) 13:00~15:00  
 内容/テラリウムとは、ガラス容器などの中で植物を栽培し、様々な世界を作り出すことです。ミニチュア恐竜フィギュアとテラリウムを使って、親子で恐竜の世界を再現しよう!

担当/矢原 武

